利根山光人 記念美術館通信

Toneyama Kojin

Memorial Art Museum News Letter

第84号　平成26年９月30日

〒024－0043　岩手県北上市立花15－153－2

TEL/FAX　0197－65－1808

平成26年度絵画教室　受講生の皆さんから

熱心に指導する千田講師

教室では、先生がたくさんほめてくれます。子どもの頃に戻ったように楽しみながら描くことができ、気持ちがわくわくします。この気持ちを取り戻すことは中々出来ることではないなと感じています。次から次へと描きたいものがわいてきて、楽しいです。年齢層が様々な生徒さんと話をしながら作品を作ることも喜びです。絵が好きだという気持ちの人が集まれば、その気持ちがもっともっと大きくなっていくということを、実感しながら過ごしています。　〔今西　唯さん〕

最初、先生の「その人なりの良さがあるから自分で工夫しながらやってみてください」という言葉に戸惑いましたが、作品に取り組んでいくうちに思いがけない色作りができたり、工夫の効果が見られたりして、制作活動が楽しくなりました。先生からのそれぞれの個性を認めたアドバイスや受講生皆さんが作品を仕上げていく過程がとても参考になりました。　〔小田嶋　よし子さん〕

美術館での講義

このような教室に参加したのは初めてですが、自由な雰囲気で活動できるので楽しいです。１度だけ美術館での教室があり利根山さんの作品を見学できたのもよかったです。　〔菅野　直美さん〕

絵を描くことは好きでしたが、ちゃんと勉強したことがなく不安でした。千田先生の指導のおかげで、今は大変楽しく絵を描くことができるようになり、本当に感謝しています。　〔小田島　ケイ子さん〕

木炭で描くことなど全く初めての経験です。対象物の位置や大小のバランスが成否を決めるのかなと思います。加えて明暗のつけ方、その強弱など学んでいきたいと思います。　〔髙橋　正行さん〕

〈画伯との思い出〉

2012　審査風景

10月末頃になると、メキシコの街にはガイコツの人形がずらりと並ぶ。「死者の日」を祝うための装飾だ。この日には死者の魂が蘇ると言われ、亡くなった家族を偲んで食えや飲めやの夜会が開かれる。

北上市が中心となって開催してきた「利根山光人記念大賞展」の折には、関係者一堂が集い、故人を偲ぶ機会が継続的に行われてきました。しかし残念ながら、2012年の第５回開催後、大賞展は一時休止となりました。2021年には、利根山光人生誕100年という大きな節目を迎えます。祖父の絵・人柄は、世界に誇れる日本のコンテンツの一つであることは間違いないので、生誕100年に向けて、北上を中心に世界へ発信していきたいと私は考えています。

ご依頼頂いた利根山光人エピソードとは少し趣旨が異なり恐縮ですが、この場を借りて「利根山光人」を今尚支援してくださる北上市、友の会を始めとした多くのご関係者に厚く御礼を記し、４回に渡るコラムの〆とさせて頂きます。

今後とも引き続きご高配受け賜りますよう、お願い申し上げます。

2014年９月吉日ケニア国モンバサの港町にて、尾崎　健人

尾崎健人さん（利根山光人の孫）

画伯の名前の「人」の字をもらい、現在は、画伯のように世界を飛び回り、途上国開発の現場で開発コンサルタントとして働く。

「遺したい北上の風景画」

平成24年度の絵画教室受講生となり、講師千田浩文先生の「自由に伸び伸びと」という精神の下で、一年間を楽しく過ごす事ができました。この作品「ひらた舟」は、受講第１作目のもので、展勝地のレストハウスから見える景色です。北上でこんなに見事な舟が見られる所はここだけ！だと思います。苦労した所はたくさんありますが、雲が一番です。先生曰く、「ボカシが重要」と。「描きたい」と「描ける」は違うんだということをしみじみと感じた作品です。

加藤眞知子さん
（利根山光人記念美術館光の会）

ー「遺したい北上の風景画」募集ー

応募希望の方は、北上市まちづくり部生涯学習文化課（0197－72－8304）までお問合せください。

「美術館の楽しさ」　その3

美術館に入ると、受付の台の上から利根山氏のブロンズの像が出迎えてくれます。生前の氏を知る人は、人を大切にし、律儀な人だったと言います。像と目が合うとその言葉を実感します。右手が常設展「東北の祭りシリーズ」です。200号の大画面に圧倒されそうですが、逆に手招きされているようにも感じます。６号の「金魚ねぶた」８号の「津軽虫送り84”」が慎ましやかに展示されています。金魚の顔が円、画面全体が朱色で彩られ心和みます。虫送りの虫が何とも言えず愛嬌があります。殺さずに、村の外にそっと送り出そうという農民の思いが伝わってきます。これは利根山氏の思いでしょうか。

髙木　俊士
（利根山光人記念美術館専任研究員）

いらっしゃい

ー美術館・展示会巡りー

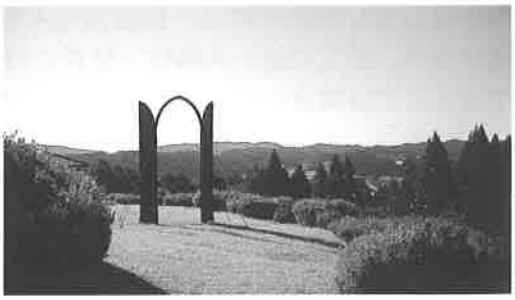
3. 東和町の街かど美術館アート＠つちざわ〈土澤〉

２年に１回10月始めから11月の始めまで開催され、期間中は東和町の町全体が美術館となります。各商店、一般の住宅、公共施設、倉庫、森、山、野原、池、郊外の家、などなど。作者の好む所、どこでも利用して展示します。日常の生活空間の中で展開することで、美術のあり方を探る試みのようだと感じました。2011年は71点ほど出展され、絵あり、コンペあり、踊り（パフォーマンス）ありの不思議な美術館でした。参加して大変楽しい思いをしました。

川杉　雅江

駅の中にはこんな人形が…

郊外の空き家に飾られたフーセンアート



「季節の呼吸」未来に希望をつなぐ門

発　行　北上市まちづくり部生涯学習文化課
〒024-0061　岩手県北上市大通り1―3―1　電話　0197―72―8304　　FAX　0197―63―3121